

# 我々の組織について考え 原点に立ち返ろう

2015-2016年度  
和歌山東ロータリーのテーマ

Be a gift  
to the world  
2015-2016年度 国際ロータリーのテーマ

国際ロータリー第2640地区  
**和歌山東ロータリークラブ**  
URL: <http://www.werc.jp> E-mail: [info@werc.jp](mailto:info@werc.jp)



## にこにこ箱

ありがとうございました

- 山本 進三さん 有井さん、本日は卓話ありがとうございます。  
 檜畑 友洋さん 有井さん、本日はお忙しい中お越し頂きありがとうございます。  
 卓話楽しみにしています。  
 佐藤 義記さん 有井君、本日の卓話楽しみにしていたのですが、所用で途中退席します。  
 すみません。  
 加納 研次さん 有井さん、本日の卓話よろしくお祈いします。  
 赤井 雅哉さん 今日入れて後3回になりました。後少しよろしくお祈いします。  
 有井さん本日はよろしくお祈いします。  
 上中 崇司さん 有井様、本日はよろしくお祈いします。

〔皆出席表彰〕

中山 恒夫さん 20年皆出席表彰

本日の累計 26,000円(計7名 7件) [お誕生日お祝い 475,000円 皆出席表彰 65,000円 その他 1,653,708円 累計額 2,193,708円]

クラブ名	日 時	内 容
和歌山城南R.C.	6月16日(木)	卓話「総本家駿河屋の歴史と展望」(株)総本家駿河屋代表取締役 岡本 良太さん
和歌山南R.C.	6月17日(金)	例会変更
和歌山中R.C.	6月17日(金)	クラブフォーラム「会長・会長エレクト」
和歌山北R.C.	6月20日(月)	例会変更
和歌山アゼリアR.C.	6月20日(月)	第5回クラブ協議会
和歌山R.C.	6月21日(火)	卓話「障害者スポーツの普及・拡大の取り組みについて」 和歌山県障害者スポーツ協会事務局長 嶋本 昇さん
和歌山西R.C.	6月22日(水)	例会変更
和歌山東南R.C.	6月22日(水)	年間活動報告②

》 本日の例会 6月16日(木) 》 前回の例会 6月9日(木)

- |  |  |
|--|--|
| <p>■卓話「歴史ドキュメンタリー番組『語り継ぐエルトゥールル』の制作を通して」<br/>テレビ和歌山アナウンサー 山田みゆきさん</p> <p>■お誕生日お祝い<br/>山本 進三さん 6月5日</p> <p>■ピアノ演奏<br/>シネマのように(アンドレ・ギャニオン)<br/>一人のドライブ(アンドレ・ギャニオン) 中井 利枝さん</p> | <p>■卓話「みんなが思うあったらいいね!をまちに増やそう」<br/>地元力財団 有井 安仁さん</p> <p>■ロータリーソング<br/>「四つのテスト」 島 公造 ソング委員</p> <p>■ビジター紹介<br/>那覇西R.C. 飯沼 武さん 加納 研次 親睦委員</p> |
|--|--|

》 次回の例会 6月30日(木) P.M.6:30 ~ 於 ダイワロイネットホテル和歌山4F 》 メイキャップ (敬称略)

- 2015-2016年度最終例会  
 6月10日(金) 和歌山中R.C. 古屋 光英、吉田 篤生  
 6月14日(火) 和歌山R.C. 内畑瑛造、古屋光英、山本進三

出席報告	会員数 43名(内出席規定適用免除会員12名)	6月 9日(本 日)	25名/38名	65.8%	皆さん、出席してください。
	内畑 瑛造 出席副委員長	5月26日(メイキャップ後)	29名/37名	78.4%	

国際ロータリー第2640地区 和歌山東ロータリークラブ 創立/1959年2月23日  
 例会場/ダイワロイネットホテル和歌山 〒640-8156 和歌山市七番丁26-1 TEL (073)435-3333-FAX (073)423-0057  
 事務局/〒640-8142 和歌山市三番丁6関西電ビル5F TEL (073)432-4343-FAX (073)432-4845 例会日 木曜日 12時30分  
 会報・広報委員会 乾 敦雄 武田 慎介 吉増 亨 谷口 文利

## 》 会長報告

笹島 良雄 副会長



飯沼さん、本日御出席心から感謝致します。当クラブ入会前に何回も御出席心強い限りです。田原会長がシンガポール方面に出張中との事なので代役を努めさせていただきます。尚、先日の会長報告によればシンガポールロータリークラブにてメイキャップを為される予定との事でした。

田原会長さんには、4年前に当クラブで多くの会員が退会し、混乱した時に会長を務めて頂き、そして今期も会長職を立派に勤められ唯々感謝致して居ります。

今期もあと僅かとなりました。6月2日(木)には、新現の方針発表等のクラブ協議会も行われました。次期は上中会長、檜畑幹事のフレッシュコンビでクラブの発展に向けて御尽力を頂きます。皆様それぞれ社業にお忙しい中大変でしょうけれど宜しくお祈い致します。特に上中会長エレクトの方針に仲間を増やしたいとの方針が随所に感じられて、大変感銘を受けて居ります。今回のI.D.M.のテーマにも「会員増強」についての討議を要望されています。私の経験では会員数は年々4%程度の自然消滅は避けられません。その自然消滅を克服して、会員数を増やしていくのは大変難しい事ですが、クラブの総力を挙げて会員増強に努めるのが重要課題と考えます。

## 一熊本地震の義援金の状況について一

2640地区より、各クラブに礼状を送りましたが、地区内各クラブの熱意によって、総額5,790,609円(58クラブ)の多くの義援金が集まりました。6月1日に第2720地区の野田三郎ガバナー指定の口座へ振り込みました。丁寧なる礼状も届いて居ります。

今回は特にうれしい思いをしたのが、第2640地区の70クラブの内、58クラブが協力して頂きました。ここ5年程まとまらなかったこの地区も漸くまとまりつつある事を実感して居り、担当者としては感謝と喜びを感じて居ります。又2720地区の礼状の中に記してありますが、効果的な活用先を一段落したら連絡して頂ける事になっているのも有難い事と思っております。

## 》 幹事報告

赤井 雅哉 幹事



- ・こぼと学園便りが届いております。..... 回覧
- ・2640地区ガバナー事務所より、「熊本地震義援金ご協力の御礼」が届いております。
- ・長い間病気の為例会を休まれている八幡さんのご自宅にお伺いしました。ご本人はお元気で、7月か8月頃復帰したいとのことでしたのでご報告させていただきます。

## 皆出席表彰

中山 恒夫さん

20年皆出席



おめでとうございます

### 卓話 「みんなが思うあったらいいね!をまちに増やそう」

地元力財団 有井 安仁さん



私の仕事は、まちに「あったらいいね」を増やしたり、まちの「ほっとけない」を減らすことです。自分自身が事業をつくることもありますが、まちづくりや地域課題解決に取り組む事業家が生まれやすい環境をつくるための裏方的な役割が主です。

現在は、「社会的投資をデザインする会社」株式会社 PLUS SOCIAL (プラスソーシャル) の役員を務めています。社会的投資というのは、経済的(金銭)リターンと併せて社会的リターン(公益)を組み込んだ新しい投資の形で、社会的インパクト投資とも呼ばれます。人口減少が進む一方で社会の課題は多様化かつ増加している背景もあり、政府も「骨太の方針」に社会的投資を盛り込むなど税収が減る中で社会を持続させるための資金循環の仕組みとして注目されています。まだ3年目の小さな会社ですが、これまでに約20億円の社会的投資を得て日本におけるこの分野でのパイロット事業をつくってきています。

その1つに地域貢献型発電所事業がありますが、この事業は太陽光発電所を設置・運営し、その収益を発電所がある地域に寄付で還元するという事業モデルです。政府による再生可能エネルギーの拡大政策によって電力の固定価格買い取り制度(FIT)が設けられた結果、東京からの資本、時に外国からの資本によって、各地にソーラー発電所が建設されています。田舎に太陽光パネルが敷き詰められて、その地域にはわずかな固定資産税が入るだけで雇用などは生まれません。FITは運営事業者に利益をもたらしますが、その利益分は電気を使用する一般家庭や企業に負荷としてかかっています。結局は都会の一部の人間達が得をすることに田舎が使われているだけじゃないか、そんな声も聞こえてきます。自然エネルギーなど多様な電力確保のあり方を求めていくことは正しいことですが、制度のあり方によって自然エネルギーそのものが悪者扱いされてしまっていることもあります。

こうした問題点への気づきから、発電所を設置した地域や、地域課題解決などへ売電収益を還元する日本初となる「地域貢献型発電所」の実施に至り、この事業モデルは2014年のグッドデザイン賞を受賞しました。この事業によって、発電所を置く印南町や鈴鹿市においてまちづくり基金をつくることができ、また昨年からは京都・祇園祭の露天で使用される食器をリユースのものに変える「祇園祭ごみゼロ大作戦」の初期費用をつくることができました。今後はエネルギー関連事業に加えて、不動産の有効活用や農業などの分野において、社会的投資によるチャレンジングな事業を生み出していきたいと考えています。

また、地域の「ほっとけない」課題を解決するための手段として、地域課題の解決に取り組む人と、それを応援したい人を寄付でつなぐ事を「財団」という機能を用いて取り組んでいます。この公益財団法人わかやま地元力応援基金は、アメリカのコミュニティ財団をモデルとしてつくられています。東日本大震災をきっかけとし寄付が注目され、また突発的な災害時以外の日常においても地域の課題を解決する手段としての寄付をどう増やすか、また日本における寄付文化の醸成を目的として日本各地にこのコミュニティ財団が生まれつつあります。このコミュニティ財団は企業が設立する財団とは異なり、一般市民から広く寄付を募ること、寄付者とその資金を受けて事業を行う人や団体が同じ地域にいることなどに特徴があります。地元力財団も和歌山の方や和歌山に何かのご縁がある方が、和歌山の社会的・公益的活動を支援することを促進しています。こうやって幅広い市民を巻き込み、寄付文化を醸成する専門的な組織があることによって税金ではまかなえない地域課題解決などが可能となり、結果として暮らしやすい和歌山のまちづくりにつながると信じています。設立3年が経ちましたが、まだまだ力不足で皆さんへの周知も足りておりません。和歌山よりも2年早くスタートした京都ではすでに寄付額が累計3億円を超えましたが、和歌山はまだその10分の1です。継続は力なり、ですので小さくともまずは成果を着実に上げていけるように励みますので、もし何か地元へ寄付で社会貢献したいと考えられた際には地元力財団へご相談ください。遺贈についても専門士の皆さんと共に対応しております。

私がまちづくりにきっかけを持ったのは、22歳の時に起業した訪問理美容ハンズでした。高齢者や障害者の自宅などへ訪問してカットやパーマなどのサービスを提供するのですが、その訪問先で様々な生活課題を抱えた方々と出会いました。道を歩いても気づかないが、こんなに多様な「ほっとけない」ことが和歌山にあるんだということを知り、それからその「ほっとけない」の解決を担うボランティアやNPOの支援と、一方ではまちに「あったらいいね」を増やしていくことが仕事となりました。18年このようなソーシャルな事業に携わった結果として、「社会を変えるお金の流れ」があると確信しています。これからの日本社会の未来は前例の無い時代へと突入します。新しい、変わっている、誰もまだやっていないことへ引き続き挑戦して参りますので、皆さまからの「いいね!」を頂ければ幸いです。ありがとうございました。